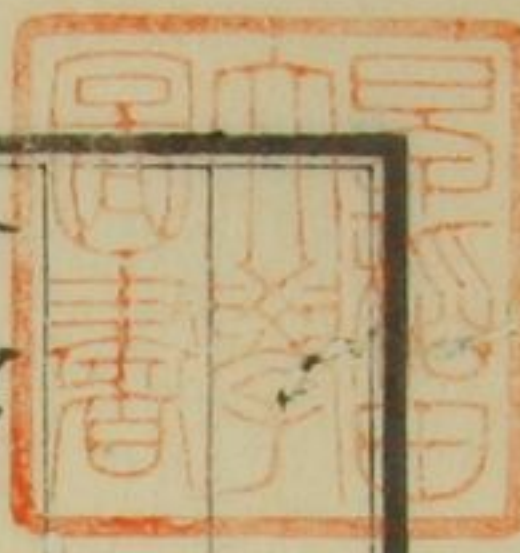


414
A 381



會館ニ星羅スル華族群位諸公閣下ニ献言ス夫不肖祐
 義ノ如キモ帝國日本ノ一民也目今危急ノ形勢ヲ識知
 シテ之ヲ不言ニ置クノ理ナシ故ニ乃七年八月別紙一
 號ノ如ク左院ニ献白レ八年二月二號ノ如ク三條太政
 大臣ニ献議シ同十月十一月ヲ以テ三號四號ノ如ク元
 老院ニ建言ス而レテ其書皆置テ省セラレ大嗚呼今ニ
 シテ而シテ後々黙止禁箝センカ天下ノ勢駸々乎敗舟
 ニ棹レテ深淵ニ臨ガ若シ蓋亦殆哉然レバ則チ之ヲ言
 ン乎太政大臣元老院已ニ此ノ如ク之ヲ謂モ猶衰トレ
 テ充耳ノ如シ言テ聽カレズ復何ニカ為シ抑モ直ニ
 天皇陛下ニ告訴センカ獨リ國ニ觸ルハ如何セン此

大屋祐義再拜稽首



大正十一年四月
隈侯爵郵寄贈



ニ至テ心思哀索涕泣大息スルノミ然リ而レテ又自ラ
懣シテ曰ク華族會館ナル者アリ是本邦ノ一議院ナリ
其故何ゾヤ蓋シ七年三月從一位中山忠能公以下華族
會館設立ノ文アリ曰ク英國ノ貴族ニ則リ本邦立法ノ
權ヲ握リ全國ヲ維持シ王室ヲ保護セン云々五月三大
臣資金ヲ贈與シテ其奉ヲ翼賛補成ス八年十月
天皇陛下臨御宣示アリ十一月華族ヲ以テ議官編選ノ
一部トナスノ命アリ此ニ因リ是ヲ見レバ華族會館ハ
本邦議院ノ一ニシテ皇室ヲ補翼シ國家ヲ保護スルノ
職務ヲ固有スル者ナリ已ニ
天皇陛下モ亦之ニ與フルニ此職務ヲ以テ然ラバ方今
危急ノ形勢群位諸公ニアラスンテ又誰カ之ヲ維持匡
扶センヤ若夫危而不持顛而不扶ハ會館設立ハ徒爾

ノミ諸公ヲ目シテ富貴爵祿ヲ貪ル國家無二ノ資民ト
謂ハザルヲ得ズ是レ祐義ノ會館ヲ以テ本邦議院ト確
認シ即チ献言スル所以也
夫方今國家危急ノ形勢三尺ノ童子モ指之ヲ知ル復タ
何ゾ之ヲ賛セン然リ唯今ニシテ速ニ扶持スベキ其著
明ナル者五事ヲ陳セン民撰議院ヲ創立スル是ナリ金
貨濫出ヲ豫防スル是ナリ朝鮮無禮ヲ尙罪スル是ナリ
三條太政大臣ト島津前左大臣ノ是非曲直ヲ剖明スル
是ナリ不良ノ官吏ヲ斥黜スル是ナリ民撰議院ヲ創立
スルノ説如何ニ曰ク七年一月副島前參議等献議アリ
テヨリ以來公議輿反復是ヲ説明ス而レテ四號第一條
ノ如ク祐義モ亦之ヲ痛論ス復喋々ヲ用ヒスト雖氏要
スルニ民撰議院ハ華族會館ト上下相待テ國家ヲ維持

匡扶スル者タレバ此會館アツテ此議院ナカルベカラ
ズ之ヲ人身ニ譬フ身首アツテ手足ナキガ如シ會館ハ
身首ナリ議院ハ手足ナリ天下身首アツテ手足ナキモ
ノアレバ之ヲ目シテ不具ノ人ト謂ン故ニ之ヲ創立ス
ルニ是緊急議決セズンバアル可カラズ金貨濫出ヲ豫
防スルノ説如何ン曰ク國家非常ノ儉素ヲ守リ輸出入
入ノ品物ヲ制限シ保護ノ税額ヲ定ルノミ保護税ノ事
既ニ外務省官吏ニシテ之ヲ主張スル者アルヲ聞ク宜
シク之ヲ機トシテ其説ヲ擴張シ是緊急議決セズンバ
アル可カラズ朝鮮向罪ノ説如何ン曰ク三號四號ノ如
ク社義已ニ極言痛論ス然リ而シテ言未ダ尽サハル者
アリ猶之ヲ説ン熟ク我國勢ヲ視ルニ魯國ハ東北ヨリ
蠶食セントシ英國ハ西南ヨリ鯨吞セントス而シテ臣

國モ亦我ニ欲スル所ナシトセズ加之七年討台ノ後ヨ
リ怨ミテ清國ニ結ブアリ是レ四方八面皆敵國ト言ハ
ザルヲ得ズ而シテ官庫空乏國繁殖官吏朝ニ威權ヲ逞
シ人民野々安處セズ念此ニ至テ寒心戰慄措ク所ナシ
蓋シ恐テ且ツ誠メズンバアル可カラズ此ノ時ニ當ラ
國家ノ元氣ヲ振起セント欲スレバ外勢ヲ張テ内情ヲ
鎮スルニ如クモノナシ其故何ゾヤ第一世拿破崙氏ノ
始テ崛起スルヤ内國ノ事置テ向ハザル者ノ如シ遠征
外伐其國威ヲ照耀シテ而後テ内國始テ定ル今代獨逸
帝即位ノ日ニ當リ澳國ト鏖戦シテ帝祚始テ固シ之ニ
因テ之ヲ觀シバ朝鮮可征ノ理ナキモ猶其曲ヲ釣リ其
端ヲ啓キ以テ之ニ乘ズベシ況ンヤ乃チ雲揚艦ヲ砲撃
スル如キ正々堂堂ノ辭アルニ於テヲヤ機會ノ未ル其

間髪ヲ容レズ如何ゾ兵内訌ノ萌生ヲ是憂ヒ全殺ノ缺
乏ヲ是苦ミ遂巡蹶躅シテ彼小國ニ屈辱サル、イラ是
忍ブヤ然レバ則ク一朝大國ニ屈辱サル、ニ當リ耳ニ
シテ巾幗ノ遺ヲ受ケ命是聞キ二十五百三十餘年未
ノ獨立帝國ヲシテ終ニ外國ノ制御ヲ受ントスル乎且
頃日參議黒田清隆議官井上馨等遣韓ノ使命ヲ奉ジテ
彼國ニ派遣ノ事ヲ考フルニ和戰混沌名義曖昧終ニ的
著スル所ヲ得ズ群位諸公果シテ其的著スル所ヲ得ル
トスル乎諸公此ノ時ニ當テ直言極諫セズ果何ノ時ヲ
待ツヤ是緊急議決セズンハアル可ク三條太政大臣
長津前左大臣ノ是非曲直ヲ剖明スルノ説如何ニ曰ク
大臣ノ言行ハ天下人民ノ倣テ以テ為ス所客年十月前
左大臣上書シテ太政大臣ノ行為ヲ彈劾スルヤ其書一

出シテ人民是非ノ決ヲ待ツ也ニ數月祐義モ亦四節十
一條ニ陳スル如ク兩大臣ノ言行共ニ是ナリト云フニ
至テハ天下決シテ此理ナレ然リ而レテ兩大臣ハ則ク
群位諸公ノ同族タリ其是非曲直ハ大ニ華族ノ名公ニ
関ス若シ之ヲ剖明スル能ハザレバ人或ハ曰ニ華族タ
ル者ハ是非曲直ヲ知ラザル痴漢ノモト夫同族ニレテ
國家ノ大臣トナル者アレバ之ヲ大槩ト謂ハザルヲ得
不然レバ則ク同族ノ為ニ華族一行是非曲直ヲ知ラザ
ル痴漢ト嗤笑セラル、ニ至テハ是ヲ大辱ト謂ザルヲ
得ズ群位諸公此大辱ヲ忍ズ猶大臣ニ依比曲從セント
スル乎蓋シ然ラズ顧ニ諸公思ノ此ニ至ラザルナリ故
ニ速ニ兩大臣ノ是非曲直ヲ剖明レテ其非ナル者ハ法
司ニ付レテ之ヲ罪レ其是ナル者ハ政府ニ請テ之ヲ賞

レ天下ヲシテ大臣ト雖凡罰スベキハ如斯賞スベキハ
如斯ヲ知ラシメ而シテ後人民始テ國家ノ成法ニ其
服スベシ然ラザレバ目今ノ成法ハ後法ノミ是緊急議
決セズンハアル可カラズ不良ノ官吏ヲ斥黜スルノ説
如何ニ曰ク官吏タル者ハ上大臣參議ヨリ下巡查等外
ニ至ルマデ嚴明信教方正廉潔ナル者ニ非ザレバ敢テ
官吏ト為スベカラズ是古今ノ通義ナリ而シテ今ノ官
吏タル世詔ニ曰ク凡ソ人トシテ仕官セント欲セバ薩
長土肥ニ生レザレバ不可ナリト然リ乃チ世詔ノ如シ
天下ノ官吏薩長土肥ノ人半ニ居リ皆附和因縁シテ以
テ其根據ヲ堅クシ其職務ノ舉ラザルヲ憂ヘズ且祿位
ヲ失ハシムラ是レ憂フ孔子曰鄙夫可與事君也其未得
之也患得之既得之患失之苟患失之無所不至矣ト故ニ

正人君子ハ跡ヲ絶テ奸佞桀黠ノ徒ハ日ニ益進ニ月ニ
益加ル其己ノ行為ヲ天下民人ニ議セラル、トテ恐ル
ナリ乃チ讒謗律新聞條例ヲ頒布シテ民人ノ口舌ヲ箝
制セント欲ス是猶河ヲ塞クガ如シ必ヤ其勢橫流汎溢
終ニ覆没沈溺スルニ至ラン今ニシテ此官吏ヲ斥黜シ此
大害ヲ擺脫スベシ是緊急議決セズンハアル可カラズ
以上陳スル所ノ五事ハ皆國家ヲ維持匡扶スルノ最大
急務タリ而シテ不良ノ官吏ヲ斥黜スルヲ以テ第一著
手トス官吏不良ナレバ其品行汚下偏僻尊大自ラ許ス
其下ヲ視ルト土芥ノ如シ故ニ下ノ官吏ヲ視ルト寇讎
ノ如シ上下相背馳シテ國勢萎靡善者アリト雖凡之ヲ
奈何シトモスルトナシ此ノ如キカ亡ビズンテ何ヲカ
待ニ是乃天下有志者ノ流涕大息スル所以ナリ今ヨヤ

群位諸公ハ已ニ嚮ニ説ク所ノ如ク貴族ノ一議院ニ生
シテ此ノ明々白々ノ利害得失ヲ視テ之ヲ直言極諫セ
ガルノ理アラシヤ然リ而レテ之ヲ正院ニ告訴セント
スルカ元老院ニ討論セントスルカ否皆非ナリ
天皇陛下ニ進謁シ其利害得失ヲ詳明ニ奏上シ
陛下神武英聖ノ威靈ニ藉頼シテ一旦疾雷耳ヲ掩フ能
ハサルノ大令ヲ渙發シ臺閣ニ充塞スル不良官吏ヲ斥
罰シ嚴明信敏方正廉潔ノ士ヲ天下ニ公選レテ之ヲ登
庸シ方機ヲ分任セシメ上下三千五百万人一心富國強
兵ノ術ヲ講セバ朝鮮何レノ者ゾ魯英亞清モ亦震懼ス
ベシ語ニ曰ク大ヲ欲レテ小ヲ得ルト今日此ノ如キ大
志ヲ以テ前途成立ノ策ヲ定メズ徒ニ官吏ノ跋扈ヲ見
テ之ヲ存クルヲ能ハズ朝鮮ノ無禮ヲ聞テ之ヲ征スル

ヲ能ハズ金貨ノ空乏ヲ知テ之ガ輸出入ノ平均ヲ論ズ
ルヲ知ラズ華族會館ヲ設テ民撰議院ヲ起スヲ知
ラズ同族大臣言行ノ是非曲直ヲ剖明スル能ハザルガ
如キハ一切祐義ノ取ラザル所ナリ伏テ請フ群位諸公
今祐義ノ説ノ所ヲ以テ公平至當ト為サバ速ニ奏上レ
テ以テ行フ所アラシムヲ祐義野人ナリ素ヨリ筆硯ニ
熟セズ故ニ筆本ダ言ヲ尽サズ説ク所ノヲ辭セザルア
レバ頼クハ一机ノ坐ヲ賜ハシ平生蓄積スル所ノ議論
一々之ヲ群位諸公ノ前ニ於テ吐露センノミ敢テ妄ニ
高貴ノ視聽ヲ冒瀆ス多罪恐懼ノ至ニ堪ズ

椽木縣士族

正七位大屋祐義

明治九年一月二十二日

華族會館

諸公閣下